100 世界遺産の旅（148）

スイスを歩く　①

2000 年 7 月のスイス旅行では、Baden を最初の宿泊地とした。Baden は、チューリヒ近くにある有名な温泉保養地で、宿泊の Hotel Verenahof は、設備もよく整い、歴史を感じる重厚なホテルだった。

朝早く、水着を借りて浴場へ行ったが、入浴と云うより大きな温水プールで水浴びの感じだった。我々夫婦以外は、現地の年配女性らしい二人で、泳ぐでもなく、浸かって早朝の会話を楽しんでいた。

Baden は、ドイツ語で温泉入浴と云う意味で、ドイツの黒い森北部に Baden Baden と云う有名な温泉都市があり、両都市は、間違えられる事が多い。

ライン滝、チューリヒ近郊、スイス、2000 年 7 月

スイスのボーデン湖を発したライン川（1320 km）は、穏やかにドイツへ流れると思っていたが、ラインに滝が有るというので電車で見学に行った。土曜日と云うことで、多くの観光客が見受けられ、川は滝となり、漲って轟音を響かせて流れ落ちていた。

そのライン川は、ドイツとフランスの国境付近で北へ折れ、黒い森を経由してフランクフルトへ、そしてオランダで北海へ注ぐ。一方、欧州 2 番目の長さを誇るドナウ川（2850 km）は、ドイツの黒い森を水源とし、10 か国以上を経由して黒海へ流れる。

チューリヒ市街、スイス、2000 年 7 月

チューリヒは、もともとローマ帝国時代にイタリアと中央ヨーロッパを結ぶ幹線道路にある関所で、現在は、商業、重工業、文化、芸術、金融業の中心都市である。チューリヒという街の名前も、税関を意味するツーリクムに由来している。

神戸のガデリウスが代理店であった重工業の多国籍企業 ABB 社もチューリヒに本社を置いている。

カペル橋、ルツェルン、スイス、2000 年 7 月

ルツェルンは、多くの湖がある美しい地域と聞いていたので、リギ山よりその眺望を楽しもうと考えていたが、雨模様で断念し、暫く街を散策した。

その街で最も有名なのが、カペル橋で、紅葉で有名な京都は、東福寺の通天橋を思わせる木造である。長さ 200m に 110 枚の三角形をした板絵が取り付けられ、ルツェルンの守護聖人が描かれている。

首都ベルンの時計台、スイス、2000 年 7 月

世界遺産である首都ベルン旧市街地の見どころは、時報の 4 分前に小熊の行進が現れる時計塔の仕掛け人形である。街は、森を切り開いた建設時、最初に捕らえられた動物が、熊だったので、ドイツ語のベルン（熊）と名付けられた。

スイスは、北部より南西に向かって、大都市のチューリヒ、ルツェルン、ベルン、ローザンヌ、ジュネーブが連なり、その南側にユングフラウ、マッターホルン、モンブラン（フランス）の欧州アルプスが鎮座する地形のように見えた。

ベルン観光を終えると、ようやく雨が止んで、次に訪れるインターラーケンに晴天を祈った。